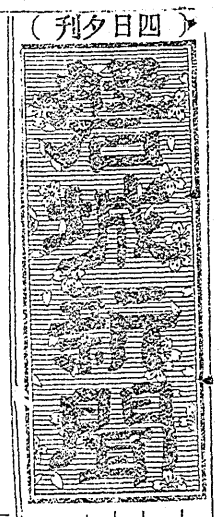
（四日夕刊）

休刊　毎月第一・第三日曜
定價　一部二錢　郵税　一ケ月六十錢　十五錢
廣告料　登行六十錢　指定廣告特別
福島縣平町田町十六番地　磐城新聞社
發行所　電話五六四番



ノートの中より

國分生

山峡にたぎる川ありそこに添ひし山吹咲けり色あらたにも

向つ山ポプラの木々に風搖れて葉裏白しる眞日受けて居り

街路樹の若葉あひよりさ流れに圍き日の影ゆれて居るなり

遠つ山雨のをやみに見つむればこちたきまでに所めける常盤樹

磐梯の嶺半分に影とめて白雲低くゆれて過ぎゆく

長降りの雨上がるかも飯豊の頂き白くかゞやきにけり

この夕べ雨やみぬればひきさびきに野に出でゝ見ゆ思ふことなし

城跡に近き小屋かも眞日に照り唐黍の花庭に咲けるも

一かたまりの黒雲はきて磐梯は宵の嵐にあれて居るなり

夏さかる峠の道を日に向ひ面はめげなり村娘

二十年を越ねー娘なるも赤帶に身をつくろひて峠來れり

小鳥の聲人間の聲

菊地生

小鳥が鳴く
チヨチヨチヨチヨチヨー
麗かに晴れわたけさ
小鳥の樣に
人間は居ないか
小鳥のやうに可愛い
聲、聲！
うれど人間の聲は
みにくゝ、聞きぐるしい

兄戀し

春雨のやうな雨の降る日です兄さん
聽こゑないでせう
餘りにかけはなれた今の境遇よ
僕は夢で會へました

青白い顔
生に對してつかれはてた
人の樣に……
餘りつかれはてた
兄さんでした
兄さんすまない
家のためだ金のためだ
生きんが爲めだ
つくづゝ今日は
兄の戀しくなる
雨の日です。

明日の吉凶……舊暦六月一日　新月暦五日

一白の人　寸分と見込みで爲せし事も外れ勝ちなる日

二黑の人　足元にある寶に氣付かず踏み越ゆる如き日

三碧の人　機を拂ふること敏なれば勞少くて効多き日

四綠の人　喜憂交々至り變動常なき日

五黃の人　逆氣浮動定まらず迷ふ時は魔の手に乘易し

六白の人　勞を惜まず苦を厭はず努力すれば効ある日

七赤の人　自ら仰ぐも我意の慕りて失敗に陷り易き日

八白の人　意外の不利に陷る事あり

九紫の人　凶より吉に次第發展し行く日

口舌失物注意

講談　赤穗義士兵衛

東京　桃川燕二演
村田月光筆

（十五）

安之助は流き出さん許かりの顏だが父の用事を果さずに歸る譯にはならない、玄關先から御門の際まで百度を踏み始めた　御門の際へ來ては曲り角を覗いて見ると父の姿は見えない、併しあれ程頼んだことだから、せめて息あるうゝ考へたゝ、又既にどこかへ行つてしまつたものと思つたゝ、玄關口にジッとし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廢坑、休山相次いで 受難の各炭礦

出炭制限の必要もなく 昔日の俤は絶無

常磐地方炭礦界は不況の連鎖に全く經營が困難と成る炭礦では亂賣を防ぎ

貯炭を整理し、炭價を釣あげる爲めに送炭並に出炭制限を行ひ各炭坑では夫れ〳〵從業員の整理を爲し内容の充實を圖つて苦鬱の打開に努めてゐるが、天災事變の續發は益々炭鑛界を不況に導いてしまつた、

常磐地方炭礦界ヶ牛耳してゐた大勢炭が茨城縣千代田炭礦を休山のたのを始に石城郡では小野田、長倉兩坑を斤冗契約を有し最近では同炭礦の資庫と云はれてゐる住吉坑を休山してしまつた、此磐炭の整理だけでも生産上可成の影響があるこ

大出水となり巨萬を投じ五大炭礦の一つに數へられてた同坑が休山する狀態になつた爲め常磐炭礦界の生産高は激減し出炭制限の必要を聞かない程度に迄なつて來た受難期にある常磐炭礦界を如何にして更生せしむるかについて各炭礦

の研究機關を設けて不斷の研究を續けてゐるが、整理と災害に依つて勞働者の失業者は增加し夏期にあり石炭の需要が著しく減少し石炭の需要が著しく減少してゐる際として現在の常磐炭礦界は昔日の俤は想豫する事も出來ない程の淋れ方である

ろに好間村の小炭礦に

石城郡地方の 豪雨被害

橋梁、水田流失多し 平土木監督所調査

石城郡地方は去る二十九日から連續的の暴風雨で各河川は何れも増水したので郡内各方部ではそれ〳〵消防組、青年團等が出動警戒を續けてゐたが二日正午ごろから豪雨となり各河川は氾濫沿岸の田畑は何れも冠水し、三日午前四時現在、夏井川鮫川の水は十四尺で藤原川仁井田川は十四尺で各河川の